

## 折に触れ 四字熟語

### NO.2 〔土崩瓦解〕 どほう がかい

< 意味 > 物事が根本的に崩れて手の付けようがなくなるたとえ。  
「土崩」は、土が崩れるように、次第に崩壊して支えられなくなること。「瓦解」は、屋根瓦の一部が崩れれば他の部分も崩れるように全体が崩れること。

< 出典 > 「史記」 <秦始皇本紀>

読み下し：『秦の積衰は、天下土崩瓦解す。』

通 積： 秦の衰えは積もり積もった結果であって、天下は土塊の如く崩れ、瓦甕の如くくだけ散ったのである。

一 言： 通積のとおり、体制とか制度が崩壊したときに引用される四字熟語ですが、この度の熊本地震のニュースを見ながらこの熟語を思いました。とりわけ、あの名城熊本城の天守閣の瓦がほとんど剥げ落ちている映像、さらに橋まで飲み込んだ土砂崩れの場面は、「瓦解土崩」（とも使われます。）が絵で描かれているように感じました。

この熟語が生まれた背景には、きっと大昔の中国にも大地震がたびたび起きていたのでしょう。山が崩れ、瓦が落ちた恐ろしい情景を目の当たりにしてこの言葉が生まれたことを思うと、自然の脅威への畏怖と人間の矮小さを感じざるをえません。早く余震が納まることと復興を祈りつつ。

参照文献： 明治書院「史記」 三省堂「四字熟語辞典」 岩波書店「四字熟語辞典」